



朝日学園・みつ朝日学園連合PTA広報誌

Trinity

トリニティー

Vol.11

2020



CONTENTS

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1— はじめに・ごあいさつ | 17— 表彰 |
| 2— 学園歌 | 19— インタビューで知る朝日学園 |
| 3— 連合PTA10周年記念講演会 | 21— 行事一覧 |
| 5— 幼稚園 | 23— 数字で見る朝日学園 |
| 9— 小学校 | 25— 朝日学園教職員一覧 |
| 13— 中等教育学校 | |



朝日学園
グループ

<https://www.asahijuku.ac.jp>

はじめに

今年度、朝日学園・みつ朝日学園連合PTAは発足10周年を迎え、内田美智子氏を講師にお招きし、記念講演会を行いました。家庭での食生活が将来一人暮らしを始めた時の子供達の食生活に繋がっているということ。食事、家事、生き方を伝えていくことの大切さを教えていただきました。中でも、「親からの心無い言葉や態度で子供の脳が萎縮する。しかし萎縮した脳は、その後の愛情のかけ方や、子供を大切に思っているということ伝えていくことで元に戻る」というお話に、何気ない日常を見直す機会をいただきました。

お忙しい中、会場にお越しいただいた皆様、講演会の企画から当日の運営まで多くの方のお力添えによって10周年記念講演会を無事に開催できました。心より感謝申し上げます。

2020年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。1964年の東京大会は大きく世界を変えたと言われています。2020年は「全ての人々が自己ベストを目指し(全員が自己ベスト)、一人ひとりが互いを認め合い(多様性と調和)、未来へ繋げよう(未来への継承)」の3つを基本コンセプトとしています。「全員が自己ベスト」は選手や運営サイドはもちろんのこと、全ての日本人が世界中の人々を最高の「おもてなし」で歓迎することを目指し、「多様性と調和」については、世界中の人々が多様性と調和の重要性を改めて認識し、共生社会をはぐくむ契機となるような大会を目指す。「未来への継承」は世界にポジティブな変革を促し、未来へ継承していくという位置づけとする。この3つのコンセプトはオリンピックのような大会だけでなく日々の生活の中でも大切にしていきたい言葉のように思います。幼・小・中等の全ての子供達が自己ベストを目指し、お互いを認め合い、未来へ継承していけますように。三校園が益々協力をしていけるよう祈っています。

朝日学園・みつ朝日学園連合PTA会長 万波 信

ごあいさつ

学園長 鳥海 十児

トリニティーは今回第11号の発刊となりました。人間に例えれば、オギャーと生まれた創刊号から満11年、小学校の6年生にまで育ったこととなります。わが子を6年生にまで育てるのは大変ですね。同様にトリニティーも苦勞してここまで良く育てていただきました。これまでの積み重ねは、トリニティーの目的や性格を鮮明にしてきたように思われます。関係して下さった各校園PTAの歴代の担当者の皆さまに厚くお礼を申し上げます。

ところで今号の表紙には、小学校の26期生が卒業記念に寄贈してくれた「建学の精神」の石碑と子供達の写真が掲載されています。石碑の文字は小・中等で校長をしていただいた軌保学峰先生の書を刻字してもらいました。「個性を伸ばすハイレベルの教育」の基で、学園の子供達がそれぞれに個性を伸ばし、人々に喜ばれ、感謝される「志」ある人間に育ててほしいとの思いが形になりました。

ここ数年私は各地で「立志教育」をしています。子供達にはなるべく早い時期から将来の夢をもち、それを目標にして努力し、確実に前に向かって歩んでいくことを期待しています。トリニティーの成長と共に、あるいはそれよりも大きく子供達に成長してもらいたいと願っています。



学 園 歌

「朝日をあびて」

朝日学園・みつ朝日学園連合 PTA 作詞
園田 幹子 作曲
金丸めぐみ 編曲

さあ 歩きだそう はるかな道 力いっぱい この瞬間を
ひとりの力 小さくても 手をつなぎ 仲間を信じて

海にむかって とびたつ鳥 はるかかなたに 未来があると
信じる勇気くれたのは ここにいる仲間
ありがとうの気持ちをこめて 自由の空へ とびたて
こころに大きな華を咲かせて すばらしい未来へ すすもう

海にむかって とびたつ鳥 新たな大地に 未来を創る
豊かな知識くれたのは ここにある学びや
ありがとうの気持ちをこめて みどりの地球みつめよう
朝日をあびて 輝く笑顔
ありがとう We are blessed with everything

ありがとうの気持ちをこめて みどりの地球みつめよう
朝日をあびて 輝く笑顔
ありがとう We are blessed with everything



子供達が実際に歌ったものを
YouTubeでお聞きいただけます



各校園の園歌・校歌が聴けます

■朝日塾幼稚園 園歌



園児達が実際に歌ったものを
YouTubeでお聞きいただけます

■朝日塾小学校 校歌



児童達が実際に歌ったものを
YouTubeでお聞きいただけます

■朝日塾中等教育学校 校歌



岸田敏志氏が歌ったものを
YouTubeでお聞きいただけます

朝日学園・みつ朝日学園連合PTA10周年記念講演会

いのちをいただいて、つないでいくこと ～いずれ一人で生きていく子供達へ～



助産師・思春期保健相談士
内田 美智子 先生

10月24日(木)内田美智子先生をお招きし、岡山市民会館にて朝日学園・みつ朝日学園連合PTA10周年記念講演会を開催いたしました。

『いのちをいただいて、つないでいくこと ～いずれ一人で生きていく子供達へ～』という演題でご講演いただき、会場には赤ちゃんをお連れの方やご家族様など、たくさんの方々にお越し頂きました。

この世に生を受けた喜び。子供とのコミュニケーション、そして成長の鍵は食育にあるということ。親が老いたとき、一人で生きていくことができる人に育てることが本来の子育てであり、それこそがいのちをつないでいくこと。時に笑いあり涙ありと、助産師として「生まれ来るいのちの現場」でいのちを見つめ続けてこられた内田先生の優しさと想いのこもった講演会となり、子育てのエッセンスや幸せを感じられるとても有意義なひとときとなりました。

当日は、お足元の悪い中、朝日学園・みつ朝日学園連合PTA10周年記念講演会にご来場いただき、本当にありがとうございました。

また、この度の記念講演会開催にあたり、学校の先生方をはじめ多くの方に大変ご協力をいただきました。おかげさまで無事に講演会を開催することができましたことを、心より感謝申し上げます。



内田美智子氏 プロフィール

1957年 大分県生まれ
1980年 国立小倉病院附属看護助産学校助産師科 卒業
1988年 福岡県にて、内田産婦人科医院を夫とともに継承
2004年 九州思春期研究会設立 事務局長をつとめる
2008年 福岡県家庭教育アドバイザー、助産師として3,000人以上の赤ちゃんの出産に立ち会い、「生まれ来るいのちの現場」でいのちを見つめ続けてきた。命の尊さを伝え続けるその講演は、聴く人の心に共感と感動を与え続けている。



著書ご紹介

- ◆ ここ ～食卓から始まる生教育
- ◆ いのちをいただく ～みいちゃんがお肉になる日
- ◆ お母さんは命がけであなたを産みました ～16歳のための命の教科書
- ◆ あなたが生まれた日 ～あの日のことを親に聞く「大人になるためのレポート」



ご聴講いただいた方々の感想

講演会を聴講し、我が子の誕生を今か今かと待った日のことを思い出しました。あれから12年、娘は私と口喧嘩ができるほど成長しました。日々、嫌な顔をされつつも良かれと思って伝えていることが、もしかしたら親の都合？子供のことを思い通りにできると勘違いをしているのではないかと考えさせられました。子供を授かり無事に出産することは、何一つとして当たり前のことはなく奇跡を積み重ねたもの。我が子に出会えたことに感謝し、いつか手元から巣立っていくその日まで、しっかり愛情を注ぎ、よき理解者として焦らず見守っていきたいと思います。

子供は親がいなくなった後、一人で生きていかなければならないと、わかっていながら日々の忙しさの中で後回しになっていました。でも、親がいなくなって困るのは子供なので、大切な子供のためにこれから必要な事を身につけさせたいと思いました。

子供達に自分の気持ちを伝えることが、なかなか恥ずかしく、思ってもできないのが現実でした。伝えることの大切さを教えていただけて、「これからは少しでも伝えていけたら・・・」と、努力しようと思いました。

「言葉の暴力」わかっているのに言っていました。「傷ついた脳は回復する」の言葉に救われました。楽しい子育てを、今日から実践します！

「親が変われば子供も変わる」「今からでも遅くない」というメッセージが心に残りました。子供にプラスの言葉がけ・態度を持って接しようと思いました。そして食育の大切さを改めて考えさせられました。



妊娠して「親」になる覚悟をした日を思い出しました。初心に戻り、また新たな気持ちで子供に向き合ってがんばろうと思います。

たくさん涙を流して心が洗われた気がしました。子供達の素直な心、母親が大好きという気持ちを受け止めて、母親の立場にあぐらをかかないように気をつけたいと思いました。

子育てをもう一度やり直してみようと思いました！子供に「大好き」と伝えます。日々の子育てでは忘れてしまいがちな「大好き」「子どもの喜ぶ顔」を考えながら子育てします！

「家の中は笑顔であふれていますか？」「今、笑えていますか？」講演冒頭、すでにハッとさせられました。日々、時間に追われる中での育児で、我が子が生まれた時の気持ち＝「生まれてきてくれてありがとう」そして「すくすくと育てられていることの大切さ」をすっかり忘れていたことに気づかされました。ただ、そこに命があることの喜び、『あなたの命』は奇跡なのだということ。『生』の反対は『死ぬこと』ではなく、『死なないこと』だそうです。生まれてきて生き続けること、子供との時間は全て奇跡の連続である。…と。日々の生活を振り返り、涙があふれ止まりませんでした。幼い我が子はママの姿が見えなくなると、無条件でママを求め泣き、そして私は無条件で子を愛し慈しむ。いつから「～ができたら。」「○○ちゃんはできるよ。」「何で分からないの。」と、条件付きで愛すようになったのでしょうか。子供に対して『あなたの命は奇跡です』と、優しい心で接することができるようになり、そして我が子への愛を再確認させられた、素晴らしい講演でした。